



あり、後者には釉薬(ゆうやく)を施し沖縄独特の絵付け模様の製品が多く見られます。

1682年、知花窯(ちばながま)、湧田窯(わくたがま)、宝口窯(たからぐちかま)の三つの窯が現在の壺屋に移設統合されたのが始まりです。製品は大きく分けて荒焼と上焼があり、前者には無釉(むゆう)の比較的大きな製品が

壺屋焼

つばやき



壺屋焼の特徴と技法

壺屋焼の特徴は、その素朴さと力強さ。どっしりとした重量感のある器は、温かみと風格が見る者、使う者に、自然に伝わってきます。この力強さや温かみは、長い伝統に培われた技法と、土と炎によって産みだされるものです。(壺屋陶器事業協同組合HPより)



琉球漆器の歴史は14世紀末頃に始まりました。木地(きじ)はデイゴ、エゴノキ等で、上塗りは天然漆(てんねんうるし)を用いた塗り立て技法で、特に朱の鮮やかさは他に例をみません。加飾(かしよく)は沖縄独特の堆錦(ついぎん)のほか螺鈿(らでん)、沈金(ちんきん)、箔絵(はくえ)など多彩な技法があります。

りゅうきゅうしつき

琉球漆器



漆器作りに最適な沖縄

沖縄は年間を通して気温と湿度が高く、漆器を製作するのに大変適しています。琉球王国時代には、交易品の一つとして数多く作られました。特に、漆の朱色の鮮やかさは、紫外線の強さと、亜熱帯の独特な気候風土によるものです。



Okinawa's Traditional Crafts

沖縄の伝統的工芸品

その2



1611年、薩摩から木綿の種子と織技術の導入により始まりました。琉球紬に使用されている幾何学模様(きかがくもよう)は生活や自然を図案化したものが多く600種類に及びます。それらは、絹糸、綿糸、麻糸を用い素朴な味わいと端正な風格を表現します。

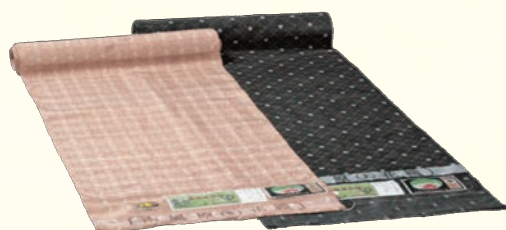
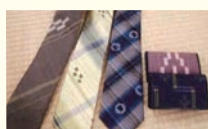
りゅうきゅうかすり

琉球紬



独特の紬模様

模様の一つ一つにはトゥイグワー(鳥)やダキノフシー(竹の節)などの動植物や、カザマラ(風車)トクイピーマ(徳利)の道具を基にした幾何学模様があり、多種多様の模様を組み合わせ、紬の美しさを表しています。



南風原花織

はえばるはなおり



南風原花織には、ヤシラミ花織、クワンクワン織り、タッチリーなど、独特の技法により模様は花のように美しく図柄に立体感がでて華やかな印象を受けます。南風原花織は紋織りという種類の織物で、紬などは経緯(たてよこ)の糸が1本ずつですが、花織の中には8本以上使い、他にはない美しい織物を作り上げていきます。

南風原花織の歴史

南風原町では、明治の頃から花織の技法を母から娘へ伝承した形跡があり、現在も改良されながら織り続けられています。

